



新方式ちり落とし装置で6倍も働く

電気掃除機を使っているいちばん面倒なのは、フィルタが目づまりしたときに、フィルタについた細かいちりなどをどうして除くかということである。たいていの掃除機では、ケースをあけて、ごみを捨て、フィルタを取り出して棒きれでたたきより方法がない。もうもうたる塵埃(じんあい)が飛散して、奥様がたは不愉快な思いを味わされる。

日立ポット形掃除機には、この不愉快をなくすために、“新方式ちり落とし装置”がついている。ちょうど水面を走る水すましの細長い足のような4本の棒である。フィルタが目づまりしたら、除塵子についているハンドルをまわすと、除塵子がフィルタをたたきようにしてまわり、塵埃がさっと落ち、最初の強い吸込力を回復する。フィルタの布面は起毛してあるので毛布のちりを裏からたたいて落とすのと同じ理屈になる。写真は、塵埃より吸着力の強いみがき砂をフィルタにべっとり付着させ、それを除塵子で払ったところである。

新しい“C-V 250”では、ちり落としのハンドルがケースの外側についたもので、目づまり表示がでたら、すぐにちり落としができる。試験(当社の旧製品)によると1回の吸塵量450gが目づまりがおこり、ふつうならここでケースをあけてごみ捨てをしなければならないが、“C-V 250”ではグルグルとちり落としのハンドルをまわすだけでよい。ちり落としを続けると、6回、すなわち2,700gのごみがたまるまで、ごみ捨てをしないで掃除が続けられる。このちり落とし(除塵子)は、日英米3個国の特許となっており、“C-V 250”には特許・実用新案が申請中も含めて129件もはいつている。

家庭電気製品は、アイデアが大きな効果、価値を生むことが多い。